

佳作

さかなつり

愛媛県 松山市立荏原小学校二年 名越 太希

ぼくは、ずっとふねにのってさかなつりをしたいと小さい時から思っていました。なぜかというと、ぼくのお父さんが、さかなつりが大すきで、大きなふねをもっていて、いつもたくさんのさかなをつっていたとお母さんから聞いていたからです。ぼくのお父さんは、ぼくが生まれてすこししてから、びょう気でなくなってしまうので、いっしょにさかなつりをしたくてもできませんでした。お母さんは、お父さんが生きていたら、うれしそうにぼくをさかなつりにつれて行ってくれたとよく話していました。お父さんといっしょにさかなつりに行けないのは、さんねんです。だから、お父さんみたいにたくさんのさかなをつるのが、ぼくのゆめでした。

今年の夏、なんとそのチャンスがやってきたのです。お母さんのしりあいのおじさんに、ふねでさか

なつりにつれて行ってもらえることになり、ぼくはとびあがるほどうれしかったです。さかなつりとう日が来るのが、まちどおしくて、お母さんに何回も聞いていました。

とう日は、とても天気がよく、とてもあつい日でしたが、そんなあつさなんてへっちゃらで、どんなさかながつれるのかだけが、たのしみでした。おじさんのふねは大きくて、海の上をすいすいはしつてすすみました。ようやく、さかなをつるばしよにとうちやくし、さかなつりがはじまりました。ドキドキしながら、エサをつけてもらい、つりざおを海に入れると、すこしして、ビクビクとさおがゆれ、さかなのあたりがきました。ぼくはどうしたらいいのかとこまっていたら、おじさんがリールをいっしょにまいてくれてやり方を教えてくれました。なんとそこには、大きなメバルというさかながはりにかかってつれました。はじめてのさかなつりで、こんな大きなさかながつれてぼくは、とてもうれしかったです。さかなが一ぴきもつれなかつたらどうしようかとふあんでしたが、そのふあんもふつとびました。ぼくは、こつをつかんだのか、一人でさかなをつれるようになりました。そのごも、ヒットしつづけて、

たくさんさかながつれました。こんなたいけんをする
ことができて、本とうによかったです。またつれ
て行ってもらいたいと、おじさんにおねがいしてお
きました。

いえにかえて、ぼくがつたさかなをたべまし
た。びっくりするほどおいしかったです。ぼくのお
父さんのように、つり名人になれるようにがんばり
たいです。お父さんのぶんもさかなをつれるよう
になりたいです。